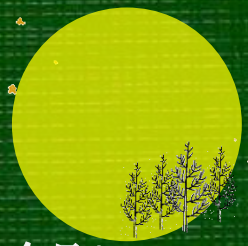


No.27 MY FIELD

MY FIELD とは … 原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。
原村で暮らす、おもしろくて素敵なひとを紹介します。



「民生児童委員協議会会長」 五味 勇吉さん (76)

原村生まれ原村育ち。39歳の時に村議会議員へ立候補し、5期に渡りご活躍された。特にスポーツ振興に力を入れ、村民の健康な体作りを目指し体育館設立を提案した。現在は民生児童委員協議会会長として独居高齢者の見回り等を行っている他、シルバー人材センターや農業、婚活の相談員等も務め、いつもイキイキと元気に動き回っている。

人に関心を持ち、互いに支え合うこと
共に生きる美しい村を目指して

生まれてからこれまで、ずっと原村で暮らしている五味さん。高校卒業後材木店に勤め、トラックで全国を回ったが、やっぱり原村が一番好きだと感じたそう。「生まれ育ったこの村が大好きなんだよ！どこへ行っても原村が一番だと思って帰ってきたよ。」ととびきりの笑顔を見せてくれた。

そんな大好きな村を盛り上げたいと、39歳の時に村議会議員へ立候補し見事当選。教育とスポーツ振興に力を入れ、20年間に渡りご活躍された。「当時の村の子供たちは体が小さくてね。運動で体を丈夫にして、健康で長生きしてほしいと思ってスポーツ振興に力を入れました。」と話した。

その想いは今も変わらず、高齢者向けの有酸素運動教室を主宰。体だけではなく頭の体操も大事だと考え、70歳のときに「学習療法士」の資格を取得し、地区の公民館を回っている。

「年を取っても元気で仕事ができたり、そこに暮らしている人たちがイキイキとしていると、村自体がキラキラ輝く気がするんだよ。それが美しい村なんじゃないかなあ。」と話し、その基盤となるのは何となく、健康な体なのだを教えてくれた。

76年間原村で暮らしてきて、昔と今と変わりましたか？と尋ねると、「昔は百姓仕事しかなかったけど、色んな産業が増えて、都会から人が移住してきてくれて、人口が保たれて嬉しいよ。」と話し、その一方で失ってしまったものもあるのだと話した。「昔はみんな力を合わせて共に生きていたんだよ。食べるものがなければうちにおいでってね、そんな風に助け合ってた。今は民生委員として見回りをしているけれど、昔は近所同士で当たり前になっていたことなんだよ。できれば取り戻したいね、共に生きる社会を。」と想いを打ち明けてくれた。

いつも笑顔で、沢山のことに興味を持ち、自分事のように一緒に悩み助けてくれる五味さん。その胸には「人に関心を持つこと」「互いを尊重し合い支え合うこと」が、当たり前にあるからなのだと言った。

様々な事柄や人に関心を持つことで、人生が豊かになるのだと笑う五味さん。そのことが同時に、関わる人々の笑顔を生み、無関心が生む孤独から人々を救い、美しい村へと繋がっていくのだ。